



さあ、これでも
同じ事が言える
かしら？



くそっ…
放せっ！

ふふ…
これで貴女はもう
逃げられないわ



な、何を？
急に身体が熱く…

それに変な気持ち
湧き上がってくる



か、身体が小さく
なった？

あらあらあ？
随分可愛い姿に
なったわね？



いやあああつ！



ふわあぁあ

はあぁあ



私の魅力に気が付いたかしら？
今の貴女、とても情け無い顔
してるわよ♪



そして何ぞか私…
目の前の大きな穴の中に
すぐく入りたい…

何、コレ…
意識が朦朧として



お利口さんね♪
自分から口の中に入って
くれるなんて
私も楽に食事ができて
うれしいわ



でも、でも…
中に進む度に、私の心臓が
喜びで激しく音を鳴らすの！
止められないっ

ああ、どうしよう…
なぜか行っちゃ
いけない気がする



食事？さっき私の事
食事って言った？
そっかあ、わたし
ごはんだったのね…

ドロ...

ドロ...

ドロ...

ドロ...



ゴクッ

はあん…
わたしついにのみこまれ
ちゃったのねっ！



んっ！おっきなしたが、
つつんでくれるっ
わたしをあじわってくれるの
うれしいっ

ベロッ



ふう…
貴女、普通の冒険者の割に
良い味していたわ♪



